
残酷な真実の果てに・・・

忍龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

残酷な真実の果てに・・・

【Nコード】

N3504R

【作者名】

忍龍

【あらすじ】

暴かれてはならぬ真実がある

(前書き)

心を広く持つて下さい、真に受けたら負けです、さらっと流す感じ
で頼みます、乙女の皆さんごめんなさい

パチン、パチン、と保健室にホチキスの音が響く
いくつかの印刷物の山から一枚ずつプリントを取り、纏めたものを
ホチキスで留める、この繰り返し

「あゝ・・・だりいゝ・・・」

「だるいのはあたしも同じ、早く終わらせないと帰りがとんどん遅
くなるじゃん

「口より手え動かしてよ、手っ!」

「あいよゝ」

保健委員として仕事を頼まれ、早一時間
作業はざっと見たところ三分の二終わっていて、わりとはかどって
はいるんだけど、窓の外がほんのり茜色に染まり始めると、やっぱり
気持ちは焦ってくる

「あ、あれ佐々木と石森カップルじゃん？」

「え、どこどこ？」

「あ、ほんとだ、夕暮れのカップルって絵になるゝ」

「しかも学区一の美男美女カップルだしな」

「あゝ、いいなあ・・・
生まれ変わったら美人になりたい」

「オレもオレもっ、モテてえーマジで」

「ま、あたしら並だもんね」

「並って言うなよ里中、牛井みたいだろ」

「ま、所詮儂い夢ってことですわよ山村サン、さっさと終わらせよー
よーし、後30分以内に終わったら明日は購買のスペシャルフル
ーツサンドが手に入る！」

「お、昔よくやったわソレ
じゃオレは30分以内に終わったら晩飯はカツカレー！」

子供の頃によくやった、バスケットで一発でゴール決められなかつ
たらオレ死ぬとか
入ったら復活、とか 次入ったらさっきの帳消し、とか
そんな一人遊びを持ち出してラストスパートを掛ける

そして・・・

「30分以内に終わったら、成績アップ！」

「玉の輿！」

「美形になれる！」

「っし、終わったー!!!」

その瞬間

ピカアアアアアアアアアッ!!

「うわ眩し!!」

「なにこれっ」

強烈な光があたしたちを包み世界は一度、そこで途切れた

「・・・はあ」

ヤツがアンニユイなため息をつくとき、そこかしこでキヤーと黄色い声上がる

「ちょっと、やめてよ」

「んなこと言ったってお前・・・」

あたしもつられて出そうになったため息を呑み込む

あの強烈な光の後、あたしは何故だか赤ん坊になっていた
よく見えないけどすぐ隣には、時折触れる感触から察するに多分あ
たしと同じような赤ん坊と一緒に寝ていて

周囲の大人たちの会話で、その子があたしの双子の兄弟だとい
うことと、あたし達はある国の王子王女だということを知った

会話を聞く感じでは、その赤ん坊はかなり容姿が整っていることが

分かる

となれば、当然、双子であるあたしも周囲の反応からそっくりであることが分かって相当将来有望な顔に生まれたんだという結論に達し、うはうはといつかなんといいうかとてもはしゃいだのを覚えている

・・・しかし

しかし、それもつかの間で、なんだか兄弟の様子がおかしいことにも気付いた

なんていうか・・・そう・・・赤ん坊らしくない・・・っていうの？

喋れるようになるまでぐっ和我慢して、記念すべきあたしの第一声はコレだった

7

「あんたましやかやまむりや？」

「そうゆうーおみやえはさとにゃかか？」

双子の兄弟は、クラスメートにして委員仲間の山村だった・・・

まあ、別にこいつが双子の兄弟でもいいわよ

だって夢の美形だもん！

なんてお互い考えてたけど、甘かった

あたし達はお互いの様子や周囲の様子を伺うことに必死で、ある問題に気付いていなかった
その、ある問題とは

「だから、やめてって言ってるでしょそれ！」

「無茶言うなよ、勝手に出るんだからよっ」

漫画とかで、ほら
背後にシャボン玉みたいな背景描写とか、可憐な花とか、でるでしょ？

アレよ、アレ！

ざわざわと不気味とも思える透き通るような美しい白薔薇が山村の背後で生えた

唐突に

キモッ！

しかも

「だってよお、落ち込むだろ？」

オレら17年もトイレ行ってないんだぜ？」

「口に出して言わないでよ、余計滅入るでしょ！」

そう、トイレに行かない・・・っていうか、行けない・・・
美形はトイレ行かないって、そんな漫画じゃあるまいし・・・
そうは思うけど、この17年、行きたくなっただことすらない

鼻とかは、穴はあるけど毛は無いし・・・

山村の話ではスネ毛もヒゲも生えてこないらしい・・・

「オレら、人間じゃねえのかな？」

飯は食うのに、出ないなんて・・・

「・・・・・・・・・・。」

「おい、何で黙んだよ・・・おい？」

「・・・・・・・・・・。」

あたしは、ヤツからそつと眼を逸らした

「・・・まさか、何か気付いたのか？」

「・・・・・・・・・・。」

「おい、教えるよー！」

「・・・そんなに知りたいの？」

「あたりまえだろ！」

「後悔しない・・・？」

「するわけねえだろ！ 勿体つけないで早く教えてよ！！！」

あたしは、ティーカップから紅茶を一口飲んで、長いため息をついた

「あたしらって、ほら・・・」

「うん？」

「色々出るじゃない？」

「あ？、ああ、花とか妙な空気とかな」

「それじゃないかなー・・・って」

「は？」

「いや、だからさ・・・」

「ご飯とか食べた分、花とか妙な空気として”排泄”されてるんじゃないかな、って・・・」

.....。

.....。

.....。

「.....え.....それってウン.....ッ」

最後まで言えずに青ざめたヤツを見て思った
流石に驚愕に青褪める顔も美しいな、こいつ

とか冷静に眺めてる時点であたしもダメだなこりゃ

「え、だ、おまつ、ウ、ウン だとおおおおオオオオ、オ、オ
ッッ?！」

美形なのにウン とか叫んだ山村は、この世界の王族の平均寿命5
30年をウン 王子と影で呼ばれてすごすことになる

(後書き)

いや、即位しても王子なのかよ、とかく突っ込むところはソコかよ
色々力尽きた感が否めませんが、ご容赦下さいな

とりあえず雪融けはやっとな入れておいた矛盾に触れました、もうち
よっともうちよっとな、頑張れ自分!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3504r/>

残酷な真実の果てに・・・

2011年5月20日19時51分発行